

特集5 精神疾患と亜鉛



くぬぎ ひろし
功刀 浩

帝京大学医学部 精神神経科学講座
主任教授

要旨

精神疾患患者では、食欲低下や偏食、加工食品の摂取量が多いこと、アルコール過飲などにより亜鉛欠乏を来しやすい。薬剤の使用も亜鉛欠乏の要因になることがある。実際、うつ病、統合失調症、アルツハイマー病などの主要な精神疾患患者の亜鉛濃度は、健常者と比較して有意に低下していることを示すエビデンスが蓄積している。入院を要する重度の神経性やせ症患者においては半数以上が亜鉛欠乏を来すとされる。一方、うつ病では亜鉛の補充療法の有効性も示されている。したがって、精神疾患患者では血清亜鉛濃度をモニターし、不十分な患者に対しては、亜鉛の補充を積極的に考慮すべきである。

本稿では、精神疾患において亜鉛が関与するさまざまな脳内メカニズムについても紹介する。

キーワード

うつ病, 統合失調症, アルツハイマー病, 神経性やせ症